県外から農地、直売所 視察ツアー

箱根西麓三島野菜PR

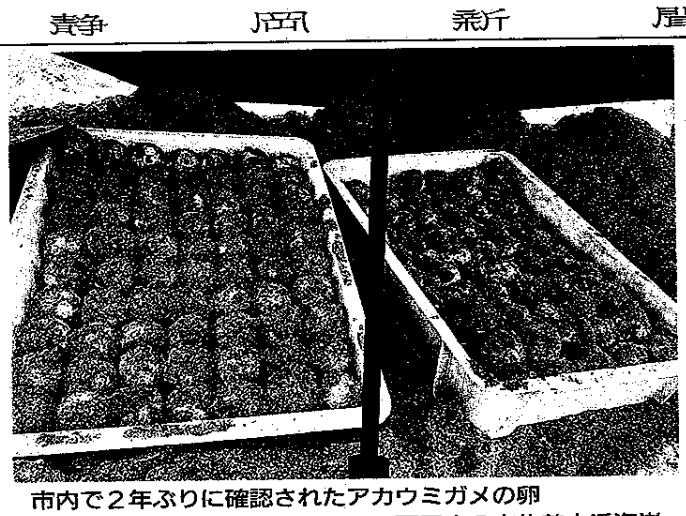
日当たりと水はけに優れた高地で生産される三島市特産の箱根西麓三島野菜をPRする視察ツアーが4日、市内で開かれた。東京や大阪などから訪れたモニター10人が野菜の畑や直売所などを訪れ、地元農業の魅力と現状に触れた。

キャベツ収穫にも挑戦

キャベツの収穫に挑戦するツアーの参加者＝三島市笹原新田

一行はJAふじ伊豆の野菜直売所を見学した後、標高350㍍の同市笹原新田でキャベツを生産する宮沢竜司さん(37)の畑を訪れた。就農のきっかけや高品質にこだわる産地の思い、価格の変動による農家の苦労などについて宮沢さんから話を聴いたほか、取ったばかりのキャベツを試食したりして農業の魅力に触れた。根を刈り取る収穫方法も教えてもらい、包丁を手に協力して挑戦した。

主催は食を通じたイベントの企画や情報発信を展開する「こころキッチンJP」（本社・京都市）。行政やJAと連携して野菜のPRを行うのは初の試みで、7月には三島で一般向けの現地ツアーも開催する。同社代表の江藤三穂さん(37)＝富士市出身＝は「農家からここまで深い話を聴けるのは貴重な体験。いろんな応用が考えられる」と話した。（三島支局・金野真仁）



市内で2年ぶりに確認されたアカウミガメの卵＝下田市の吉佐美大浜海岸

ウミガメ産卵2年ぶり

下田 吉佐美大浜海岸に134個

下田市の吉佐美大浜海岸で4日、絶滅危惧種のアカウミガメの卵134個が見つかった。同市の下田海中水族館によると、市内で産卵が確認されるのは2年ぶり。

午前9時ごろ、ライフセーバーがウミガメの足跡を発見し、同館に連絡した。職員が波打ち際から約30㍍付近を掘ると、深さ約70㌢の砂の中からピンポン球ほどの卵が見つかった。卵は数を数えるなどした後に元の場所に戻し、周辺には保護用のロープを設置した。

同館職員で県希少野生動植物保護監視員の浅川弘さん(51)によると、ウミガメは一夏に2～5回産卵し、約2カ月後にふ化する。今後、田牛や多々戸浜など他の海岸でも産卵が期待できるという。

同館は産卵期を前に住民らと海岸清掃を行っている。浅川さんは「ウミガメはごみや流木が混じった砂浜を嫌う。普段の活動が今回の産卵につながった可能性もある」と話した。（松崎支局・土屋祐人）

トヨタ社長 小山で会見 モータースポーツフォレスト語る

「車の魅力 発信の場に」

ブン・シティ」（裾野市）、自動運転などの研究開発拠点「東富士研究開発拠点」（FSW）で、町のPR

町モータースポーツ協力会は4日、自動車のスーパー耐久シリーズ「富士スーパーテック24時間レース」会場の富士スピードウェイ

取り組み。イベント広場の一角にブースを設けて富士山のポストカードを配布し、町商工会が優良推奨品に認定する菓子や雑貨を販売した。

バリアフリー化へ分科会

富士市公共交通協議 利用回復の施策も

富士市公共交通協議会の本年度初会合がこのほど、市役所で開かれた。本年度中の「市バリアフリーマスタープラン」と「市地域公共交通利便増進実施計画」の策定に向け、二つの分科会を設置する方針などを承認した。

各分科会は協議会の6人で構成し、専門事業を検討する。

同マスタープランは、市内の鉄道駅7駅と駅周辺の建物や道路のバリアフリー化の基本方針を定める。国の方針見直しに伴って、1日の利用者が2千人を超える駅と周辺が対象となった。既に基本構想を定め、整備を進める新富士、吉原、吉原本町、富士の4駅に加え、富士川、東田子の浦、竪堀の3駅も含めて策定する。

同実施計画は新型コロナウイルスの影響で減少している公共交通の利用者の回復に向けた施策を盛り込む。分科会では運賃やダイヤ改正の妥当性などを話し合う。同市富士川地区でデマンドタクシー「ふじかわ」を10月から実証運行する案も承認された。

中学総体水泳競技 保護者の入場要望

会の要項では保護者が会場に入場できないこ

客だったため、3年生の選手の保護者は一度

仕事定着率向上へ 若手社員交流会

東伊豆

東伊豆町内の若手社員の交流会「ひがしいず同期会2022」が2日、町内で開かれた。

交流を深める参加者＝東伊豆町

町外出身者を念頭に、若者同士が交流を深めて仕事への定着率の向上を図る狙い。

入社3年目以内の20～30代約60人が参加した。稲取温泉旅館組合が主催し、町内で空き家を活用した暮らし体験塾を展開している合同会社「soan（ソウアン）」の企画、運営。参加者はソウアンの荒武勇希さん(31)から町内の産業構造や移住状況を学んだ。その上でグループごとに特産のキンメダイ漁師や町職員、移住者らを訪ね、町の魅力や日常生活について質問した。

コロナ禍の中断をはさみ、同事業は2017年から実施している。荒武さんは「自分の領域外との接点はなかなか持ちづらい。コミュニティーを広げるきっかけ作りにしたい」と強調した。

「富士宮の良さ」写真や動画募る

富士宮高校会議所

富士宮高校会議所は15日から、「宮フォトコンテスト」と「宮PV（15秒動画）コンテスト」の募集作品の受け付けを始める。テーマは「あなたの思う富士宮の良さ」とした。

このほか現在、SDGsコンテストの応募を受け付け中。SDGs17項目の目標達成に向けたアイデアや実践例を募る一般部門と、同高校会議所が開発したリサイクル堆肥「マスマス元肥」を活用した実践例を募る部門を用意した。同堆肥を使った野菜や花、果樹の栽培実践例などに加え、今年は新たに耕作放棄地への同堆肥の活用実践例を募集している。

いずれも応募は11月30日まで。表彰式は12月19日。賞品は図書カードや「麺財符」（お宮横丁で焼きそばを食べられる券）など。メールや郵送で受け付ける。

問い合わせは同事務局へ電090（5008）5439〉へ。

長泉の高齢者 スマホ操作学ぶ

携帯会社社員が講師

長泉町はこのほど、地元のシニアクラブを対象にしたスマホセミナーを同町下土狩の原分公民館で開いた。

原分区のシニアクラブが受講したスマホセミナー＝長泉町の原分公民館

下土狩原分区の70～80代の10人が参加し、アンドロイドとiPhone（アイフォーン）の端末の違いやボタンの性能などの知識を学んだ。ソフトバンクの社員が講師を務め、町職員と共に一人一人と会話をしながら、丁寧に伝えた。

参加者はアイフォーンを使って、マップやカメラのアプリの操作を習った。スマホでのネットトラブルについても講義を行い、理解を深めた。

同町下土狩の岩屋和枝さん(74)は「自宅でスマホのカメラのなどいろいろやってたい」と話した。画財政課の浅倉充は「今後は個人やグループに向けてミナーを開催したい。参加者が楽講義を受けてくれかった」と述べた

裾野東支店で 昼休業を導入

三島信金、来月

三島信用金庫は11日から、裾野東（裾野市茶畑）で業時間を導入し、～午後1時に窓口める。

人員の再配置にした店舗戦略環。同支店は預金り扱いを中心業し、融資や各種の相談と申し込きは近隣の裾野（同市佐野）と連て受け付ける。裾支店の現金自動（ATM）は昼休間も利用できる。

ウクライナの避難家族支援

JAふじ伊豆 三島函南地区 食や健康サポート

藤沼常務（左）から野菜を受け取る避難家族ら＝三島市のJAふじ伊豆三島函南地区本部

JAふじ伊豆の三島函南地区本部は農家やジム、総菜店と連携し、ロシアの軍事侵攻を受けるウクライナから三

してもらうほか、函南町の総菜店「フライパン」は週に一度、総菜を届ける。

贈呈式に出席したネジェリコさんらは変な時にすごい。戦争が終わ自分たちが日本を差し伸べたい謝した。野菜を務は「三島は良ろ。安心して暮よう、できる限したい」と述べ、

新型コロナ

がんセンターの ター収束 長泉町

静岡がんセンタ日、クラスター（集団）が収束した。5月11～24に患者や職員21染。新規入院の受などは再開してい